



## ピッチ・ブンヘイン君 13歳

牛飼いをしているときに田んぼで見つけた不発弾で遊んでいて爆発。左手首から先が吹き飛ばされ、右手と右足の指の一部を失った。

※CMCは彼に地雷被害者のためのラジオ番組「VOICE OF HEART」の広報用ポスターのモデルになってもらった。左の写真はそのときに撮影したもの。



ブンヘイン君の左手首から先は義手となっている。

CMCが現地事務所を置くバタンバン州の都市部からタイ国境へ向けて凸凹道をバイクで約2時間走ったところにラタナモンドール郡はある。ここはカンボジアの中でも地雷・不発弾の被害が特に多い地域である。ブンヘイン君の家もここに位置する。2005年10月1日の昼過ぎ、ブンヘイン君はいつものように牛を連れて家を出た。牛の世話は彼の日課である。そして家から3キロほど離れた田んぼで牛を見つつ、近くに住んでいた友達とガラクタを探し始めた。おもちゃにして遊ぼうと考えていたのだ。

午後3:00頃、少し面白い形をしたものを見つけた。まるでランプのような形だったという。そしてそれを手に持って遊び、地面に打ち付けた瞬間、爆発した。ブンヘイン君の左手は吹き飛ばされ、右手の薬指と小指、右足の中指の一部も爆発によって損傷した。事故直後、ブンヘイン君は意識を失った。一緒にいた友達も怪我をしたが、意識はあったのですぐに助けを求めて自宅の方へ走った。そして事故を聞きつけたブンヘイン君の叔父がすぐさま現場へ駆けつけ、彼を家まで運んだ。この地域には重症患者を治療できるような病院はない。それでブンヘイン君は母親と祖母に連れられ、タクシーで約1時間半かけてバタンバンの救急病院 EMERGENCY に搬送された。運賃は約30ドル。これがカンボジアの現実である。緊急事態にも関わらず通常以上の料金を支払わねばならないのだ。裏を返せばそれほどこの国の人々の生活が切羽詰っているということである。



事故当時の状況を説明するブンヘイン君の母親



弟や妹の世話をするのもブンヘイン君の仕事である

家族はブンヘイン君、母親、妹1人、弟2人の5人。父親は、事故の起こった年と同じ2005年、病気のため、35歳で亡くなった。また、2007年4月22日（我々が訪問した1週間前）、15歳の姉が糖尿病のために亡くなったばかりだという。母親は炭を作って1日約1,75ドルの収入を得ていたが、ここ最近は病で動けない長女を看病し、仕事はできなかった。今は長女が亡くなったばかりで何も考えることができず、仕事に手がつけられる状況ではないそうだ。一昨年に夫が病で他界し、長男が不発弾で手を失った。さらに今年は少女が糖尿病で亡くなった。どれだけの悲しみを抱えていることであろうか。



糖尿病で命を落とされたブンヘイン君のお姉さん



ブンヘイン君は今日も家族のために働く

ブンヘイン君は苦しい家計を支えるために午前中に授業を終えた後、午後は毎日弟や妹の面倒をみたり、食事の支度をしたりしている。母親の気持ちを汲んで、進んで家の手伝いをしているのである。我々是不発弾の被害にあってもこうしてめげずに頑張り続ける彼を、CMCの地雷被害者のためのラジオ番組「VOICE OF HEART」の広報用ポスターのモデルになってもらうことに決めた。ブンヘイン君は照れくさそうにしながらも撮影に協力してくれ、「じゃね！」とだけ言って牛飼いへと出かけていった。